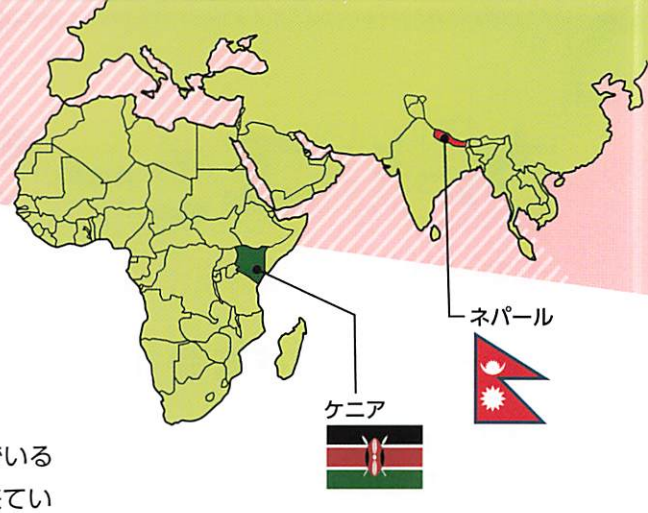
ケニアの医療事情について
形岡医師に伺いました。

KATAOKA doctor's report



ケニアのスラム地区に住む人々は国から認定されていない区域に住んでいるため、大半が国からの市民権を得られていない状態。隣国から出稼ぎに来ている人もおり、市民権が無いために医療を受ける機会があまりなく、「医者を初めて見た」「医者の存在を初めて知った」という現実もありました。医療プロジェクトとして渡航した際に公民館のような施設に医務室が設置されていましたが、机と簡易的なベッドがあるだけで、医療設備はもちろん、手術器具や薬は限られた状況。唯一、日本から持参していったポータブルエコーで状況判断を行い、緊急処置を行うケースもありました。現地の気温が40℃になる日もあり、長時間に及ぶ医療活動は体力的にも過酷になります。

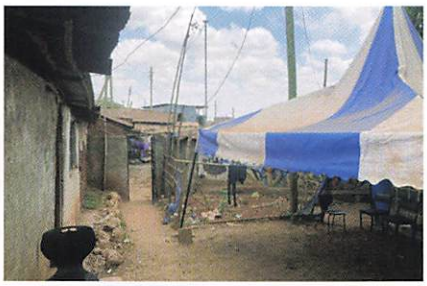
Kibera Amaniスラム

スラムを流れる川は汚染されており安全な水の確保も課題。

スラムの路地。番地は存在せず道を聞きながら進んでいく。

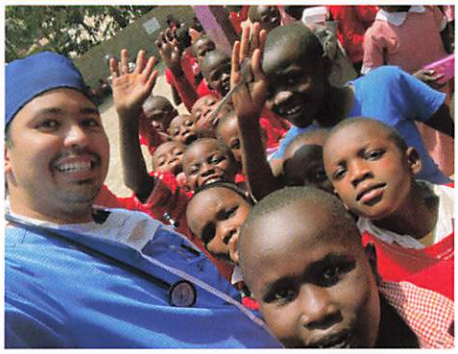
常に相棒のエコーと！

椅子を並べて毛布を敷いただけの診察台。



コミュニティースペースと言えども、テントが待合室。

Grapesyard校



我々が第一の目的として支援活動をしている学校です。初日の初診の患者がいきなりの外傷。早速処置を行いました(涙)

Magosoスラム

学校を拠点に医療キャンプ。ここも設備が無いため椅子を代用した診察台。

室内では十分な光がないため青空処置室で対応。

バガットポカリ

子供の健診のため学校に行くときは常にマグリストを身に着けています。

レクナート病院

以前に来日したバトライ先生と急患を診ました。その場で緊急処置となりマグリストがまたもや大活躍。

確かに急いでる時に物が落ちないから器具を無駄にすることはないね

T.U Teaching Hospital

マグリスト1個につき器具は1個しか付けられないけど、僻地や救急で使う分には十分だね。さすがハイテクの日本だよ！

世界的権威の心臓外科医コイララ先生にもご意見をいただきました。